

# 第1回越前おおの空家等対策計画策定協議会

日時：令和3年5月28日（金）

午前10時～11時45分

場所：大野市役所 大会議室

## 1 委嘱状交付

## 2 市長あいさつ

第6次大野市総合計画が4月からスタートした。総合計画は、2年をかけて市民の声を吸い上げ、2030年の将来像を「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」としている。特徴的な言葉は、この『住み続けたい』である。私たち市民が、大野に『住み続けたい』と思う、そういった強い意気込みが込められている。

今後、より人口が減っていかうとする中で、危険な空き家への対処に加えて、空き家の流通、住宅施策としての検証が求められると考えている。空き家は嫌なものという負の側面だけでなく、楽しみな面もあると捉えている。新たな計画には、空き家の活用や、そのための流通促進など、住み続けたいまちづくりに向けた、ご意見・ご助言をいただきたく、よろしくお願ひしたい。

## 3 会長、副会長の選出について

## 4 報告・協議事項

### (1) 空き家特措法、空家等対策計画について

法の概要、法第6条第2項の計画記載事項と現計画もくじの関係、計画策定のポイント、特定空家等への対処は専門部会で議論したい旨を説明。

### (2) 計画の策定スケジュールについて

策定に向けた年間のスケジュール、実態把握調査や庁内における取組予定を説明。

### (3) 空き家対策の取組状況の報告について

本市におけるこれまでの空き家関連事業の取組実績を説明。

### (4) 次期計画の方向性等について

次期計画の方向性として、現計画の目的や基本理念は、基本、継続・踏襲し、具体の行動につなげていきたい旨を説明。次期計画に向けた主な課題として、人口や世帯数の減少に伴う空き家の発生見通しや、空き家のなり方を整理し、事務局としての課題意識を説明。

### (5) 空家等実態把握調査の実施とその他の調査について

空家等実態把握調査の内容を説明。同調査は、現在ある空き家を対象に行うもので、空き家予備軍を対象としていない。空き家予備軍への調査など、その他必要な調査について委員の意見を求める。

#### [委員の皆さんからの主な意見]

- 今後、空き家は急激に増える恐れがある。肌感覚としても感じている。これらすべてを利活用することは難しい。所有者の方、高齢の方に対する、啓発活動が必要ではないか。
- 個人の自己啓発に関連して、自治会単位でのガバナンスの考え方や周知の取り組みが必要ではないか。
- 空き家の対応は、行政だけでは解決できない。民間には、行政にはできない解決策の提案や行政が言えないことも伝えられる。空き家の解決に向けては、民間との連携がより必要になる。
- 啓発活動について、正直、空き家になってから取り組むのでは遅すぎる。修繕にお金がかかってしまう。空き家になりそうな段階から、行く末を考えておいてもらう必要がある。
- 早期決断を促すアプローチをどのように進めていくか。
- 高齢世帯をまわるが、将来、空き家となりそうな家では、「子や娘に迷惑をかけたくない」という声を聞く、家族間での会話が少なく感じられる。
- 今住んでいる80代の方に、意思決定を促すのは難しい。早期決断は、子ども世代、もしくは、孫世代に、アプローチするのが良い。  
家族内で（家の行く末について）話ができる雰囲気づくりを、社会として作っていくことが必要。
- 市民の肌感覚として、解体費用の相場観がわからない。
- 県では、昨年はじめて移住者が1,000人を超えたという明るい話題があったが、一方で、毎年3,000人以上の流出・社会減があるのも現実。  
ただし、そのように移住等へのニーズがある中で、住むところが無い、用意できないというのは、あり得ない。
- 移住者等のニーズから、田舎の屋敷が売買等できないのではなく、その前段の所有者の意思決定がなされないところに問題がある。
- 空き家予備軍の課題をどう明らかにしていくか、自治会におけるガバナンス（人口減少・空き家対策）をどうしていくか、という点がポイントになりそう。
- モデル地区を設けて取り組むのが良いのではないか。

## 5 意見交換

## 6 その他